

地区の魅力と課題

1 本庁東部地区

(※本庁地区全体)



| | | |
|--------|--------|-----------------|
| 面積 | 17.10 | km ² |
| 人口 | 72,153 | 人 |
| 年少人口 | 10.3 | % |
| 生産年齢人口 | 57.9 | % |
| 老年人口 | 31.7 | % |
| 世帯数 | 34,357 | 世帯 |
| 自治会数 | 205 | 自治会 |

H22 国勢調査

(1) 地区の概要

本庁地区は、大正10年に旧赤間関市と旧生野村が合併したエリアであり、本市南部に位置し、行政、商業、流通、金融、情報、医療、教育などの機能が集積する本市の中心的役割を担っている。また、古来より陸と海の交通の要衝として栄え、現在も本州と九州を結ぶJR下関駅のほか、下関港国際ターミナルやバスターミナルなど複数の公共交通機関が結節している。

(2) 現状と課題

主要産業であった水産業の衰退や社会経済構造の変化に伴う福岡市、北九州市など近隣大都市への企業流出、もともと稜線が海岸まで続く平地の少ない地形など複合的な要因として、人口減と高齢化、都市機能の低下などが続いており、地域性を活かした新たな産業の開拓や交流人口の拡大により、にぎわいのあるまちづくりを進めていく必要がある。

(3) 地域資源

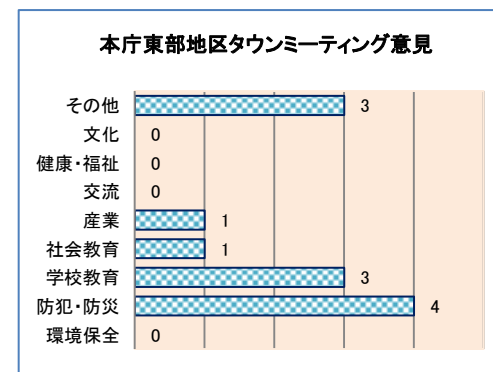
本庁地区は、幕末から明治、大正にかけての歴史的建造物や、火の山や唐戸周辺のウォーターフロントなど観光スポットも多数あるほか、大陸との海運や貿易の歴史から、国際色ある地域も存在している。

本庁東部地区タウンミーティング意見（代表例）

| 区分 | 意見 |
|-------|---|
| 防犯・防災 | 市が実施した防犯研修の内容を地域住民に周知したいが、人を集めることが難しいため、自治会の総会開催に併せ、市から周知して欲しい。 |
| 学校教育 | コミュニティ・スクール事業を小中学校ばらばらで実施しており、連携がとれていない。地域で協力し、子どもを育てていくことが大事。 |
| 社会教育 | 東部地区に公民館がなく、地域住民対象の活動に不便。 |
| 産業 | 車社会になり商店街の利用者も減少したため、商売の継続が難しい。その上、地価も下がり困っているので、商店街の活性化策をお願いしたい。 |
| その他 | 春帆楼前のビルが撤去予定であり、景観の良い場所なので、市の指導によって市民に喜ばれる跡地利用をしてもらえば良い。 |

(その他意見抜粋)

- ・空き家の増加に伴う対策
- ・高齢化進行に伴う近隣での避難場所指定
- ・駐車料金が高い
- ・学校耐震化率の向上
- ・防犯灯の老朽度調査及び早期修理
- ・インターネット利用マナー教育の必要性



地区の魅力と課題

1 本庁西部地区

(※本庁地区全体)



| | | |
|--------|--------|-----------------|
| 面積 | 17.10 | km ² |
| 人口 | 72,153 | 人 |
| 年少人口 | 10.3 | % |
| 生産年齢人口 | 57.9 | % |
| 老年人口 | 31.7 | % |
| 世帯数 | 34,357 | 世帯 |
| 自治会数 | 205 | 自治会 |

H22 国勢調査

(1) 地区の概要

本庁地区は、大正 10 年に旧赤間関市と旧生野村が合併したエリアであり、本市南部に位置し、行政、商業、流通、金融、情報、医療、教育などの機能が集積する本市の中心的役割を担っている。また、古来より陸と海の交通の要衝として栄え、現在も本州と九州を結ぶ JR 下関駅のほか、下関港国際ターミナルやバスターミナルなど複数の公共交通機関が結節している。

(2) 現状と課題

主要産業であった水産業の衰退や社会経済構造の変化に伴う福岡市、北九州市など近隣大都市への企業流出、もともと稜線が海岸まで続く平地の少ない地形など複合的な要因として、人口減と高齢化、都市機能の低下などが続いており、地域性を活かした新たな産業の開拓や交流人口の拡大により、にぎわいのあるまちづくりを進めていく必要がある。

(3) 地域資源

本庁地区は、幕末から明治、大正にかけての歴史的建造物や、火の山や唐戸周辺のウォーターフロントなど観光スポットも多数あるほか、大陸との海運や貿易の歴史から、国際色ある地域も存在している。

本庁西部地区タウンミーティング意見（代表例）

| 区分 | 意見 |
|-------|--|
| 防犯・防災 | シーモールやグリーンモール商店街があり、防犯パトロールを行っているが、高齢者が多く思うような活動ができていない。 |
| 学校教育 | コミュニティ・スクール事業を学校長を中心に取り組んでいるが、地区毎に取り組みは様々であるため、認識の統一を目的にガイドラインを示して欲しい。 |
| 産業 | グリーンモール商店街は最近、皆さんの協力により、まちづくりができてきたと感じているが、お客さんの駐車場所が無いため、行政でお手伝いして欲しい。 |
| 健康・福祉 | この地区は、地形的に車が入れず、空き地、空き家が増えている。地域でできることは地域力だと、地域のお年寄りが元気になる活動をしている。また、空き家は無償で借り受け、デイサービスのような活動を地域の協力者のもとで行っている。 |
| 文化 | 地区の特徴は、大きな歴史の動き、特に明治維新に関わる史跡などがある。住民でこれらを守っているが、周辺がさびれているため、観光資源として、また歴史的資産の保存の観点から、市として対応して欲しい。 |

(その他意見抜粋)

- ・高齢者に安心・安全な道路整備
- ・児童減少に伴う小中一貫校の検討
- ・国道の冠水対策
- ・幼保園開園までの既存保育園存続

本庁西部地区タウンミーティング意見

| | | | | |
|-------|---|--|--|--|
| その他 | 0 | | | |
| 文化 | 1 | | | |
| 健康・福祉 | 3 | | | |
| 交流 | 0 | | | |
| 産業 | 1 | | | |
| 社会教育 | 0 | | | |
| 学校教育 | 2 | | | |
| 防犯・防災 | 2 | | | |
| 環境保全 | 0 | | | |

地区の魅力と課題

1 本庁中央地区

(※本庁地区全体)



| | | |
|--------|--------|-----------------|
| 面積 | 17.10 | km ² |
| 人口 | 72,153 | 人 |
| 年少人口 | 10.3 | % |
| 生産年齢人口 | 57.9 | % |
| 老年人口 | 31.7 | % |
| 世帯数 | 34,357 | 世帯 |
| 自治会数 | 205 | 自治会 |

H22 国勢調査

(1) 地区の概要

本庁地区は、大正 10 年に旧赤間関市と旧生野村が合併したエリアであり、本市南部に位置し、行政、商業、流通、金融、情報、医療、教育などの機能が集積する本市の中心的役割を担っている。また、古来より陸と海の交通の要衝として栄え、現在も本州と九州を結ぶ JR 下関駅のほか、下関港国際ターミナルやバスターミナルなど複数の公共交通機関が結節している。

(2) 現状と課題

主要産業であった水産業の衰退や社会経済構造の変化に伴う福岡市、北九州市など近隣大都市への企業流出、もともと稜線が海岸まで続く平地の少ない地形など複合的な要因として、人口減と高齢化、都市機能の低下などが続いており、地域性を活かした新たな産業の開拓や交流人口の拡大により、にぎわいのあるまちづくりを進めていく必要がある。

(3) 地域資源

本庁地区は、幕末から明治、大正にかけての歴史的建造物や、火の山や唐戸周辺のウォーターフロントなど観光スポットも多数あるほか、大陸との海運や貿易の歴史から、国際色ある地域も存在している。

本庁中央地区タウンミーティング意見（代表例）

| 区分 | 意見 |
|-------|---|
| 環境保全 | 金子みすゞの詩碑がある公園前のごみステーションは、カラスがごみを散乱させるため、観光客が通る道筋の収集時間を早くできないか。 |
| 防犯・防災 | 指定の避難場所が地域から離れており、高齢化が進むと避難が難しいため、指定避難場所の見直しをお願いする。 |
| 学校教育 | 小中学校統廃合計画は、当時は反対意見も多く凍結となった経緯があるが、現在の保護者の多くは、少子化もあり危機感を覚えている。統廃合について、市と話し合っていきたい。 |
| その他 | 自治連合会の区域の見直しを過去にも協議したが手につけられずにいるため、町中の地域内分権を推進していくうえで、適切な自治連合会区域の整理などを行って欲しい。 |

(その他意見抜粋)

- ・高齢化で連合自治会等の役員不足
- ・地区内の傾斜地対策（空き家対策含む）
- ・地域の史跡周辺整備
- ・日和山公園を活用した地域活性化
- ・自分達の地域を良く知ることが大事
- ・少子化による保護者負担増への対策
- ・少子化対策として安価な住宅の確保
- ・少子化による学力・競争力低下が心配
- ・地域活動存続に向けた若者の人材育成
- ・まちづくりや人材育成のための子ども教育が必要
- ・転入者への民生児童委員及び活動の周知
- ・役員不足のため、市から人材の情報提供はできないか
- ・住民情報が無く活動ができずに困っている
- ・市でコミュニティ・スクール運営費不足の解消（市支援）
- ・本庁舎への電気自動車用充電器の設置

本庁中央部地区タウンミーティング意見

| | | | | |
|-------|---|---|--|---|
| その他 | | | | 4 |
| 文化 | 0 | | | |
| 健康・福祉 | 0 | | | |
| 交流 | 0 | | | |
| 産業 | 0 | | | |
| 社会教育 | 0 | | | |
| 学校教育 | | | | 4 |
| 防犯・防災 | 1 | | | |
| 環境保全 | | 2 | | |

地区の魅力と課題

1 本庁北部地区

(※本庁地区全体)



| | | |
|--------|--------|-----------------|
| 面積 | 17.10 | km ² |
| 人口 | 72,153 | 人 |
| 年少人口 | 10.3 | % |
| 生産年齢人口 | 57.9 | % |
| 老年人口 | 31.7 | % |
| 世帯数 | 34,357 | 世帯 |
| 自治会数 | 205 | 自治会 |

H22 国勢調査

(1) 地区の概要

本庁地区は、大正 10 年に旧赤間関市と旧生野村が合併したエリアであり、本市南部に位置し、行政、商業、流通、金融、情報、医療、教育などの機能が集積する本市の中心的役割を担っている。本庁北部には、中国自動車道下関インターチェンジや、山陽本線と山陰本線の分岐点となるJR幡生駅などがあることから交通の利便性が高く、市内の大学や高等学校もこの地区に集中している。

(2) 現状と課題

本庁北部地区は、本市最初の大規模区画整理が行われた地域であるが、近隣地区の開発が進んだことで大型商業施設が平成 21 年に撤退し、周辺に住む高齢者にとって、買い物への負担が大きくなっている。また、国道 191 号と県道 248 号が結節する山の田交差点の恒常的な渋滞や、市所有の幡生ヤード跡地の利用、人口に対し狭小な公民館駐車場などハード面での課題が多い。

(3) 地域資源

本庁北部地区には、下関市立大学、梅光学院大学と 2 つの大学のほか、下関市立市民病院を始めとした医療機関、高速道路 I C や JR 幡生駅などの交通機関が充実し、地区隣接地にはたくさんの体育施設が設置された下関運動公園もあるなど、市内でも有数の住環境が整った住みやすい地区である。

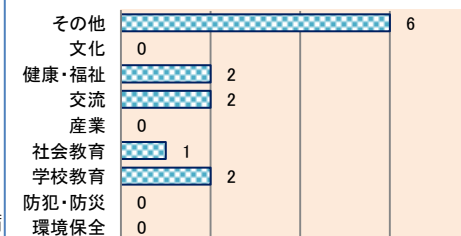
本庁北部地区タウンミーティング意見（代表例）

| 区分 | 意見 |
|-------|---|
| 学校教育 | 教育センターを、市民に開かれた施設にしてほしい。併せて災害時の避難場所としての施設整備をお願いしたい。 |
| 社会教育 | 北部公民館が地域全体の中心であるが、駐車場スペースが 56 台分と少ないため早期の増設整備をお願いする。 |
| 交流 | 幡生地区は、地域交流を積極的に取り組んでおり、6 地区での盆踊りやスポーツ交流事業も多いため、経費がかかることから、市からの支援をお願いしたい。 |
| 健康・福祉 | 市営住宅や一般の住宅などが増えたことから、椋野地区の民生児童委員の 1 名増員をお願いしたい。 |
| その他 | 山の田のサティが閉鎖され、空き店舗になっているが、このまま放置しておく地域のにぎわいを取り戻せない。地域でも運動はしているが、民間であるため、市が誘導した形で地域が活用でき、にぎわいが生まれる施策を出して欲しい。近くに市立大学や公共施設もあり、この空き店舗状態は非常に問題があると思う。 |

(その他意見抜粋)

- ・西原台公園隣接地での町民館建設許可
- ・少子化に伴う幼小中一体の学校整備
- ・新椋野団地の自治会設置に向けた市の支援
- ・住居番号表示板の市からの貼付指導
- ・利便性向上のため幡生新駅の早期実現
- ・こども園の早期整備
- ・都市計画道路の早期整備
- ・幡生ヤードの整備の中でスポーツ施設を整備

本庁北部地区タウンミーティング意見



地区の魅力と課題

1 彦島地区



| | | |
|--------|--------|-----------------|
| 面積 | 11.26 | km ² |
| 人口 | 29,200 | 人 |
| 年少人口 | 12.8 | % |
| 生産年齢人口 | 57.6 | % |
| 老年人口 | 29.6 | % |
| 世帯数 | 12,001 | 世帯 |
| 自治会数 | 41 | 自治会 |

H22 国勢調査

(1) 地区の概要

彦島地区は、彦島、竹ノ子島、六連島の3島からなるエリアであり、本市の最南端に位置する。彦島は本土と3つの橋で結ばれており、古くから造船業、重化学工業などの工業地帯として発展したほか、ふく取扱量日本一の南風泊市場など、水産加工業も発展している。かつて彦島と小倉を結ぶ関門海峡フェリーが運行されていたが、交通体系の変化に伴う利用者の減少により、2011年11月に休止となった。

(2) 現状と課題

北九州工業地帯の沿革として古くから重化学工業が発展し、多くの労働者が地区内で生活していたが、機械化や近年の世界的不況等の影響を受け、若者を中心に地区外への人口流出が続くことで高齢化も進んでいる。また、島の特性によって袋小路の地形であること、工業地帯として発展してきたことなどから、観光資源も乏しく、外地からの訪問者が少ないため、今後は他地域との交流を拡大していく必要がある。

(3) 地域資源

彦島地区は、全国の約8割を水揚げする南風泊市場の袋競りが全国的に有名であるほか、市指定文化財として金ノ弦岬灯台、西山の化石層などがある。また、自治連合会を中心とした地域住民の連帯感が強く、共助によるまちづくりが地域全体に根付いており、地域内の活動が今なお活発に行われていることも、地域資源の一つである。

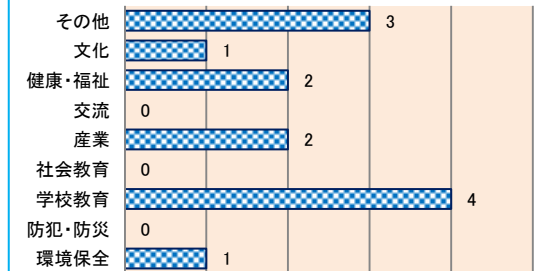
彦島地区タウンミーティング意見（代表例）

| 区分 | 意見 |
|-------|---|
| 環境保全 | 水産加工団地の空き地は。木や雑草が茂りゴミの捨て場になっている。年に1回組合員がボランティアで清掃しているが、ごみ処理に多額の経費がかかるため、木や雑草の現地での焼却許可又は市で無料収集して欲しい。 |
| 学校教育 | コミュニティ・スクールでは学校・家庭・地域の連携で、良い活動ができている。関係者が参加しやすいよう財政的支援があると更に良くなるのではないか。 |
| 産業 | 農産物直売所は当初30人位の生産者がいたが、高齢化に伴い減って直売所を維持できるか心配である。将来を見据えて後継者（生産者、リーダー）を育成して行くシステムを考えて欲しい。 |
| 健康・福祉 | 高齢化が進行し、若者が彦島を離れ、高齢者世帯が年々増加している。元気に高齢者が暮らせるよう月1回、西山町と本村町で民生委員によるサロンを開いている。 |
| 文化 | 平家踊りや上臈道中などがいつでも見られる施設があると、観光客誘致、郷土芸能発展に寄与すると思われるので検討して欲しい。 |
| その他 | 荒田のフェリー（関門海峡フェリー）休止が、彦島の過疎化を加速させる要因の一つとなっている。 |

（その他意見抜粋）

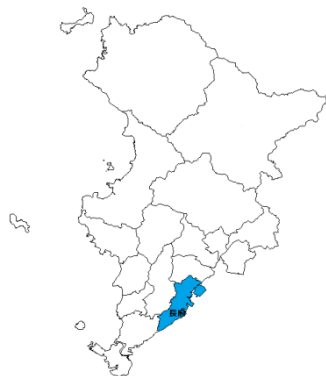
- ・農作物へのカラス被害対策
- ・学校トイレの早期整備（洋式化）
- ・学校の草刈りへの財政的支援
- ・学校統廃合と小中一貫校
- ・向井小学校の通学路雨水対策
- ・身寄りのない人の入院手続き簡素化
- ・敬老祝い金の現金給付
- ・安全な場所へゴミステーション設置

彦島地区タウンミーティング意見



地区の魅力と課題

1 長府地区



| | | |
|--------|--------|-----------------|
| 面積 | 17.63 | km ² |
| 人口 | 29,157 | 人 |
| 年少人口 | 12.1 | % |
| 生産年齢人口 | 58.7 | % |
| 老年人口 | 29.2 | % |
| 世帯数 | 12,050 | 世帯 |
| 自治会数 | 62 | 自治会 |

H22 国勢調査

(1) 地区の概要

長府地区は、明治44年の町制を経て昭和12年に下関市と合併した。長府藩の城下町として古くから市街地を形成し、海岸部には神戸製鋼所や中国電力火力発電所のほか、扇町工業団地にも大工場が数多く立地する歴史と企業が調和した城下町であり、平成5年の大型商業施設出店以降、周辺に相次いで商業施設が進出している。また、本地区は歴史ある街並みから、毎年多くの観光客が訪れるなど、本市観光面において中核としての側面も有している。

(2) 現状と課題

長府地区には、長い歴史を背景に多様な観光資源が存在するものの、その多様性故に観光客に与える印象が不明瞭となりがちであり、テーマ性を持った、下関市全体の観光産業として、市内他地区と回遊性を持たせた一体的な観光PRが必要である。近年、国の南海トラフ地震被害想定により、地震や津波など防災に対する関心も高まっている。

(3) 地域資源

長府地区は、功山寺などの仏閣や長府毛利邸、毛利秀元を藩主とした城下町としての街並みなど、歴史を感じられる地域資源が多数存在すると共に、長府商店街では地域独自のまちおこしも行われている。地区の大きなまとまりは、長府地区と長府東地区であり、社会福祉協議会や民生児童委員協議会などはそれぞれの地区に設置されている。まちづくりへの関心も高く、子育てや祭りなどが地域一体で取り組まれている。

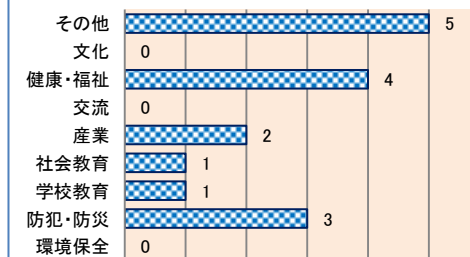
長府地区タウンミーティング意見（代表例）

| 区分 | 意見 |
|-------|---|
| 防犯・防災 | 近年、下関市でも地震が起こっており、想定外の事態も想定した備えが必要であるほか、緊急避難場所も長府東公民館の他に、中学校や小学校を加えて欲しい。 |
| 学校教育 | 長府中学校の耐震化を考えていただきたい。 |
| 社会教育 | 公民館にDVD視聴設備やパワーポイントが利用できる視聴覚室を設置願いたい。 |
| 産業 | 駐車禁止区域が拡大されると、周辺商店街の死活問題となるため、県に働きかけてもらいたい。 |
| 健康・福祉 | 駅前の長府東公民館は活動しやすい環境にあるが、地域包括支援センターの場所が分かりづらく駐車場も少ないため、分かりやすくすると共に、包括支援センターの充実も願いたい。 |
| その他 | 長府城下町は重要な観光素材であるが、駐車場が少なくマイカーでの観光客が少ない。博物館整備もあるが、駐車場確保は難しいため、シャトルバス構想等を考えて欲しい。地元も努力するが、支援をお願いしたい。 |

（その他意見抜粋）

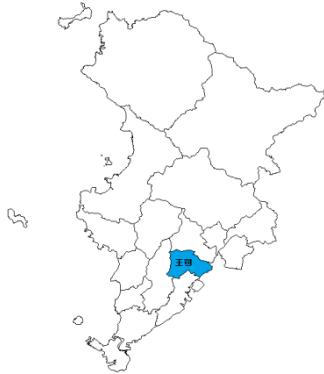
- ・くじら館の活用・整備
- ・地域活動を通じた子育てしやすい環境
- ・安全確保のための道路整備
- ・市に愛着を持つ子育て環境整備
- ・中学校の早期耐震化
- ・大型商業施設出店情報の早期提供
- ・元気アップ事業の定着
- ・時代まつり開催のための支援
- ・空き家管理の条例制定
- ・いきいきシルバー100の見直し
- ・民生児童委員の増員
- ・魅力的な企業の誘致
- ・高齢者引きこもり対策の実施

長府地区タウンミーティング意見



地区の魅力と課題

1 王司地区



| | | |
|--------|-------|-----------------|
| 面積 | 14.66 | km ² |
| 人口 | 7,401 | 人 |
| 年少人口 | 13.7 | % |
| 生産年齢人口 | 58.5 | % |
| 老年人口 | 27.8 | % |
| 世帯数 | 2,638 | 世帯 |
| 自治会数 | 17 | 自治会 |

H22 国勢調査

(1) 地区の概要

王司地区は、昭和 14 年に清末、小月、勝山、吉見と共に下関市と合併した。

本市の山陽側に位置し、四王司山を背後に周防灘へと丘陵地が続いており、主として海側の宇部字地区、山側の大字員光地区、支所周辺の新興地区 17 地区で構成されている。地区内には JR 駅は無いものの、国道 2 号、国道 491 号、主要地方道の県道 33 号が通じ、その沿線に住宅が広がっており、臨海部には、大規模な工場が集積する工業地帯が形成され、近年、人口は増加傾向にある。

(2) 現状と課題

王司地区を通る国県道は、高磯交差点を始めとした渋滞箇所が存在し、通勤・通学時だけでなく、工業・流通関連事業にも支障をきたす恐れがある。また、古くは長府藩の塩田があったことから分かるように低地が多く、過去幾度となく水害に見舞われた経緯や、2011 年 3 月発生の東日本大震災、南海トラフ地震に関する津波高、浸水域、被害想定の内閣府による公表等によって、地区で自然災害に対する意識が高まりつつある。

(3) 地域資源

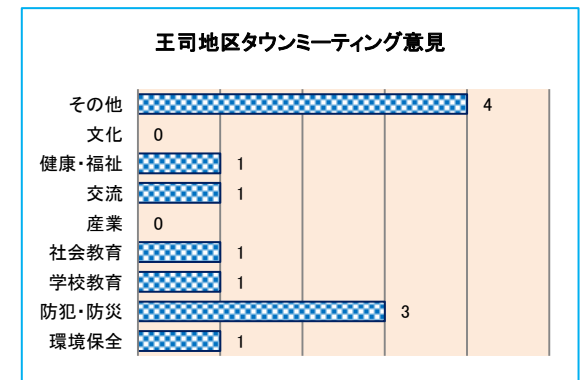
王司地区内には、天然芝の多目的グラウンド、野鳥観測所、親水広場、こども広場などが備わる乃木浜総合公園があり、憩いの場として多くの市民が利用しているほか、神田川まつり、地区運動会、地域文化の継承、王司干潟の再生など地域ぐるみによるまちづくりが行われている。

王司地区タウンミーティング意見（代表例）

| 区分 | 意見 |
|-------|---|
| 環境保全 | 平成 21 年度から 5 年計画で王司干潟の藻場干潟事業を実施し、組合員で干潟改良グループを作ってアサリの天敵であるツメタガイ駆除に力を入れている。また、王司小学校の校外学習で児童と一緒に駆除も行った。 |
| 防災、防犯 | 東北の大震災では、釜石小学校が一人の犠牲者も出さなかったが、日頃の災害教育をしていたと聞き、自助の大切さを痛感した。今年度、東部 5 地区で合同の防災訓練を実施できたらよいと考えている。 |
| 学校教育 | いじめの問題は、小学校の頃から、ゆとりや心のやさしさの教育をしていく必要があり、そうしなければいじめは減らない。 |
| 社会教育 | 婦人会では、毎月 15 日にあいさつ運動を行い、地域と子供と親のつながりを生んでいる。 |
| 交流 | スポーツ分野においても若い人が育たないという指導者問題があるため、市の方もいろいろな指導者を育成する事業を進めていただきたい。 |
| 健康・福祉 | 子供を持つ若いお母さん方のために、月に 1 日くらい休ませてあげる取り組みを考えており、サロンのような場所があればと思っている。 |
| その他 | 市の PR 手法として、バスや電話ボックス、マンホールがあるが、今後は、特に動く物（車両、バス）を活用すれば県外へも PR になって良いと思う。 |

（その他意見抜粋）

- ・ JR 王司駅は地区の夢
- ・ 今後の乃木浜公園の整備
- ・ 産廃処理場の指導と情報提供
- ・ 地区住民の防災意識が低い
- ・ 豪雨対策のための河川浚渫



地区の魅力と課題

1 清末地区



| | | |
|--------|-------|-----------------|
| 面積 | 19.31 | km ² |
| 人口 | 6,307 | 人 |
| 年少人口 | 17.4 | % |
| 生産年齢人口 | 62.0 | % |
| 老年人口 | 20.6 | % |
| 世帯数 | 2,359 | 世帯 |
| 自治会数 | 18 | 自治会 |

H22 国勢調査

(1) 地区の概要

清末地区は、昭和 14 年に王司、小月、勝山、吉見と共に下関市と合併した。

江戸時代には、長府藩支藩として清末藩が立藩され、現在も陣屋跡などゆかりの史跡が散在しており、現在の国道 439 号以東の大部分は、江戸時代の干拓により拓かれた土地であるとともに、山陽地区有数の田園地帯として稲作や野菜の栽培がおこなわれている。近年は長府、小月地区のベッドタウンとして宅地開発が進み、人口は増加傾向にあると共に、年少人口比率は市内で最も高い。

(2) 現状と課題

地区の若者を中心とした人口増加に伴い、学校や公民館など公共施設の狭隘化が進んでおり、将来性を見据えた適正規模の公共施設の整備が必要となっている。

一方、過去の水害や東日本大震災によって、地域の防災意識は高まりつつあるものの、地区外からの転入者や若者の多くは、まちづくりに対する関心が低く、消防団その他まちづくり団体の担い手が不足気味となっている。

(3) 地域資源

清末地区には、国道 2 号や 491 号のほか、近傍に JR 小月駅・小月 IC があるなど交通の便が良く、山陽地区の工業団地、商業施設も通勤圏となっている。また、自然も多く残っており、今後も若者を中心に人口増加が見込まれる。そのため、本市の若者を中心としたまちづくりモデルとしての役割が期待される。

清末地区タウンミーティング意見（代表例）

| 区分 | 意見 |
|-------|---|
| 環境保全 | 神田川の堆積土砂の除去は市が行い、草刈は地元で行っているが、距離が長いので、市の支援を検討して欲しい。 |
| 防災、防犯 | 防災計画上の避難場所である小・中学校や公民館には、食料や毛布などが無いので、防災拠点としての整備と防災教育に力を入れて欲しい。 |
| 学校教育 | 若い人の増加に伴う小学児童数の増加や 30 人学級の導入によって、教室が不足しており、増築や建て替えを市に要請しても順番があるとのこと。子供たちのためにも、早期に良好な環境で勉強させてあげたい。 |
| 社会教育 | 公民館の利用度が高いが、老朽化しているので、改築をして欲しい。地域の互助を進め、ネットワーク作りを取組中であり、市も協力して欲しい。 |
| 産業 | 今後も地区の人口増加が見込まれる中、商業施設や農産物百円市もある大変住みやすい地域、また地域の活性化も感じられるが、一方で農業者の高齢化が進み、荒廃地の増加が懸念される。 |
| 健康・福祉 | 子供の居場所づくりとして自然体験、ふるさとで遊んだ体験を提供してやりたいので、児童館や地域での交流、温かい施策が必要だと思う。 |
| その他 | グランドゴルフで利用する公園の草刈やトンボがけをされており、自前で買った掃除道具を入れる倉庫を設置したいので、土地だけでも貸して欲しい。 |

（その他意見抜粋）

- ・ 東部地区に児童館建設
- ・ 高潮対策のための海拔標識設置
- ・ 緊急避難場所としての防災タワーの整備
- ・ 子ども会の加入促進
- ・ 消防団の加入促進（モセキによる PR）
- ・ 地区スポーツの場所確保

清末地区タウンミーティング意見

| | | | | | |
|-------|---|--|--|--|---|
| その他 | 2 | | | | |
| 文化 | 0 | | | | |
| 健康・福祉 | | | | | 4 |
| 交流 | 0 | | | | |
| 産業 | 1 | | | | |
| 社会教育 | 1 | | | | |
| 学校教育 | 1 | | | | |
| 防犯・防災 | | | | | 4 |
| 環境保全 | 1 | | | | |

地区の魅力と課題

1 小月地区



| | | |
|--------|-------|-----------------|
| 面積 | 8.09 | km ² |
| 人口 | 6,747 | 人 |
| 年少人口 | 12.3 | % |
| 生産年齢人口 | 59.5 | % |
| 老年人口 | 28.2 | % |
| 世帯数 | 2,765 | 世帯 |
| 自治会数 | 11 | 自治会 |

H22 国勢調査

(1) 地区の概要

小月地区は、昭和 7 年に町村を敷き、昭和 14 年に下関市と合併した。市街地一帯はその昔、海や沼を埋め立て形成されたものである。この地区のシンボルとなっている JR 小月駅は、木材輸送を目的に豊田町西市を結ぶ長門鉄道（昭和 31 年廃線）も結節するなど古くから交通が発達し、現在も、JR 駅、国道及び県道の分岐点であるほか、中国自動車道路のインターチェンジなどを擁する本市山陽地区の交通路の要となっている。また、工場も多く立地するなど商工業の街としても、本市の一端を担っている。

(2) 現状と課題

小月地区は、古くから山陽地区の交通の要衝として発展し、昭和 50 年頃まで人口は増加傾向にあったが、成熟した地域であること、近隣に大型商業施設が立地したことなど複数の要因から人口の減少が続いている。

また、今後、地区のまちづくり団体の多くで、高齢化の進行による活動停滞が予想されるため、若者もまちづくりに参加しやすい環境を整え、多世代が協力しながら、住みよいまちづくりに取り組んでいく必要がある。

(3) 地域資源

小月地区の特徴である交通の要衝としての地の利を生かし、観光資源を豊富に有する吉田地区、豊田・菊川地区へのバス発着地として、JR 小月駅を中心とした賑わいのあるまちづくりに取り組むことが期待される。

小月地区タウンミーティング意見（代表例）

| 区分 | 意見 |
|-------|---|
| 防犯・防災 | 小月地区は防災情報放送設備が公民館しかないため、スピーカーを設置し緊急時は消防署からの発信を考えてほしい。 |
| 学校教育 | 小月小学校校舎の耐震化を 3 年以内にお願ひしたい。 |
| 社会教育 | 公民館休館日の使用は教育委員会の許可が必要であるが、支所長権限で許可できるようにならないか。 |
| 産業 | 小月地区は住みやすい町であり、若者の流出を防ぐため企業誘致など就職支援、活性化策をお願ひしたい。 |
| 交流 | 町民まつりは 400 万円強の経費がかかり苦勞している。地域づくりに祭りは大切なので市も助成してほしい。 |
| 健康・福祉 | 一人暮らしは認知症等が多く、今後、グループホームが必要になってくるので、介護施設に入所し、空き家となった家を市で利用できないか。 |
| その他 | 市民も意識改革が必要であり、まず自助、次に共同、それでもできないことに市の力。自助・共助・公助のバランスのよい施策をとってほしい。 |

（その他意見抜粋）

- ・子どもが外で遊べる場所づくり
- ・若者定住対策
- ・障害者も利用しやすい歩道整備
- ・観光客誘致のための検討
- ・公園内のトイレ等整備
- ・料理講習会への若者参加
- ・公園の避難所としての駐車場整備
- ・消防団の人材不足対策
- ・菊川プールの料金値下げ

小月地区タウンミーティング意見



地区の魅力と課題

1 王喜地区



| | | |
|--------|-------|-----------------|
| 面積 | 11.70 | km ² |
| 人口 | 3,457 | 人 |
| 年少人口 | 11.7 | % |
| 生産年齢人口 | 62.5 | % |
| 老年人口 | 25.8 | % |
| 世帯数 | 1,156 | 世帯 |
| 自治会数 | 12 | 自治会 |

H22 国勢調査

(1) 地区の概要

王喜地区は、昭和 30 年に下関市と合併した。本市の東端に位置し、山陽小野田市とは隣接している。地区内の国道 2 号、主要県道の沿線に住宅が広がり、木屋川沿いには、木屋川工業団地と共に水稻を中心とした農地が広がる工業と農業を主産業とした地域である。また、周防灘沿岸には、航空学生の基礎教育の場としての海上自衛隊小月航空基地があり、市平均に比べ若年男性の人口割合が高くなっている。

(2) 現状と課題

王喜地区は、周防灘に面する木屋川最下流域に位置し、江戸時代に干拓された土地も多いため、宅地の多くが低地に建てられており、近年多く発生する集中豪雨や、内閣府が公表した南海トラフ地震の被害想定等により、地区住民の防災意識が高まっている。

(3) 地域資源

現在、窯業や輸送機器を製造する工場が立地する木屋川工業団地は、中国自動車道小月 IC へのアクセスが良好であり、木屋川工業用水も利用が可能など、新たな工場進出による人口増加への期待が高い。

また、農業分野では、地区内でネギやアスパラガスなどが栽培されるほか、平成 23 年には地域農業の将来を見据え、市内最大規模の農事組合法人「松屋」が誕生するなど、高齢化と担い手減少等に対応する新たな地域農業として、市内全体の模範となっていくことが期待されている。

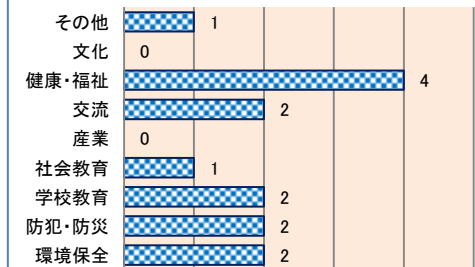
王喜地区タウンミーティング意見（代表例）

| 区分 | 意見 |
|-------|---|
| 環境保全 | ホテルは豊田の「ホテル祭り」が有名であるが、王喜地区の木屋川流域も多く生息しており、地域外の方にも見て頂きたいので、市も情報発信の手伝いをして欲しい。 |
| 防犯・防災 | 王喜地区は海岸線に近く、標高も低いので、平時は住民が憩える場所として、有事には避難場所となるような施設が高台に必要。 |
| 学校教育 | 市内では殺傷事件などの忌まわしい事件が起きているため、大人の教育にも市は取り組んで欲しい。 |
| 社会教育 | 公民館の利用を都合で変更しても使用料が徴収されるため、このような場合は、使用料免除となるよう見直して欲しい。 |
| 交流 | 王喜小学校と木屋川中学校の体育館を活動場所として、地域型スポーツクラブで地域活性化を推進しているので、トイレ改修等をお願いしたい。 |
| 健康・福祉 | 保健推進委員は、ある程度の専門的な知識が必要であることから、知識を深め効果的に地域で活動を行うため、研修機会の拡充をお願いしたい。 |
| その他 | 公共施設が本市西部に集中し過ぎている。 |

（その他意見抜粋）

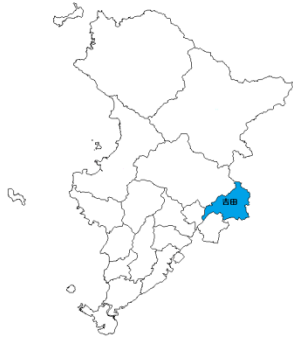
- ・子供の遊場に市営住宅跡地の開放を
- ・地元の河川公園管理に燃料費補助を
- ・自衛隊宿舎跡地を子供の遊場に
- ・地域住民のコミュニケーションの場が必要
- ・消防機庫の耐震化

王喜地区タウンミーティング意見



地区の魅力と課題

1 吉田地区



| | | |
|--------|-------|-----------------|
| 面積 | 19.62 | km ² |
| 人口 | 1,527 | 人 |
| 年少人口 | 9.5 | % |
| 生産年齢人口 | 57.8 | % |
| 老年人口 | 32.7 | % |
| 世帯数 | 583 | 世帯 |
| 自治会数 | 21 | 自治会 |

H22 国勢調査

(1) 地区の概要

吉田地区は、昭和30年に下関市と合併した。木屋川下流の内陸部に位置し、美祢市、山陽小野田市と隣接している。地区の大部分が農地又は山地林野で占められる田園地域である。第一次産業が中心で、特に「吉田なす」はブランド品として有名である。古くから旧山陽道の宿場町として栄え、明治維新の原動力となった幕末の志士・高杉晋作の菩提寺「東行庵」など数多くの史跡も存在する。

(2) 現状と課題

吉田地区は、人口減少と高齢化の進行によって、小規模な自治会では草刈りなど住民による地域環境の維持が困難になりつつあるほか、地区内に医療機関やスーパーマーケットが無く、公共交通の便も少ないなど高齢者対策が今後の課題となっている。また、地区の主要産業である農業では、サルなどの鳥獣被害増加や、2011年の湯谷温泉閉館など、地域を取り巻く環境は厳しさを増している。

(3) 地域資源

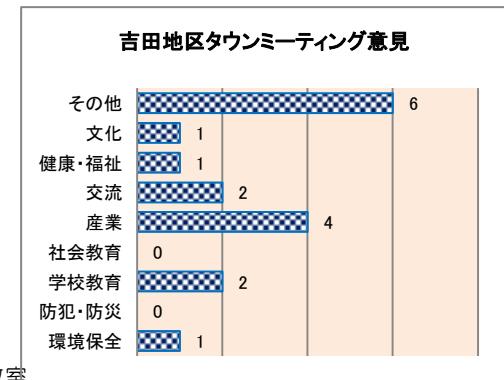
吉田地区は、歴史を背景とした史跡が数多く残されており、高杉晋作の菩提寺である東行庵周辺は観光地として整備され、一年を通して多くの観光客が訪れる。2014年は、騎兵隊結成（1863年）から150年目にあたり、吉田地区を盛り上げようと地区全体での様々な取り組みが検討されている。また、山や川、美しい景観など今なお多くの自然が残っており、これらを生かした都市住民との交流に期待が寄せられている。

吉田地区タウンミーティング意見（代表例）

| 区分 | 意見 |
|-------|--|
| 環境保全 | 草刈などできることは地域でしているが、地域によっては2・3軒くらいしかない自治会もあり、市からの援助が必要である。 |
| 学校教育 | 吉田地区は、子育てに適切な土地であり、住民も「子どもは宝」という意識が強い。問題を抱える子供の受け入れで、小規模学校の特性を生かし子どもを伸ばすとともに、地域活性化と若年層の人材づくりにつながる。 |
| 産業 | 鳥獣害の対策として、防護柵設置で耕作可能となった遊休地があるなど効果がみられることから、今後も防護柵の補助の継続をお願いしたい。 |
| 交流 | 吉田地区を元気にするには、若者定住や交流が必要であり、吉田地区特産の「ナス」栽培に、市内学生がボランティアとして参加し、地域と学生がふれあいを通じて、地域の元気につながればよいと思う。 |
| 健康・福祉 | 民生児童委員の人数であるが、市全体で増員が必要。 |
| 文化 | 奇兵隊結成150年を機に地区を盛り上げて行きたいので、奇兵隊陣屋跡の整備、高杉晋作の遺品展示など市の支援をお願いしたい。 |
| その他 | 吉田地区は、インフラの整備が遅れており光通信などを早急に整備してほしい。最新の情報が入手できれば、都会にいなくとも仕事ができ、定住促進にも役立つ。市から関係企業など働きかけてほしい。 |

（その他意見抜粋）

- ・奇兵隊陣屋跡の整備
- ・私有地である奇兵隊陣屋跡の購入
- ・シビエ処理・流通の一体的取組み
- ・罾猟の禁止の見直し
- ・地籍調査の早期実現
- ・工業団地への企業誘致
- ・吉田地区ペットタウン化
- ・若者定住のための公共的支援
- ・観光バーチャル化による観光客増
- ・地区特性を活かした放課後子ども教室
- ・市営住宅の整備
- ・鳥獣被害対策



地区の魅力と課題

1 勝山地区



| | | |
|--------|--------|-----------------|
| 面積 | 21/29 | km ² |
| 人口 | 25,507 | 人 |
| 年少人口 | 14.9 | % |
| 生産年齢人口 | 66.2 | % |
| 老年人口 | 18.9 | % |
| 世帯数 | 10,820 | 世帯 |
| 自治会数 | 41 | 自治会 |

H22 国勢調査

(1) 地区の概要

勝山地区は、綾羅木川、砂子多川沿いに古くから開けた地区であり、昭和 14 年に下関市と合併した。昭和 48 年の関門橋開通、昭和 50 年には山陽新幹線全線開通に伴う、新下関駅の営業開始によって急速に人口が増加し、大型商業施設等の相次ぐ進出もあり、現在、下関市内で最も平均年齢の低い地区となっている。

現在は、商業、サービス業を中心に農業も盛んであり、国宝の住吉神社や毛利元周(もとちか)の勝山御殿跡、ホテルの生息する砂子多川など自然と歴史に恵まれた地域である。

(2) 現状と課題

勝山地区は、開弁に伴う人口増加を見せる反面、新下関駅から離れた集落や、初期の住宅団地(田倉御殿場町)で高齢化率が 40%を越えるなど、都市部での少子高齢化も見られる。また、地区住民の約半数が居住期間 10 年未満であり、持ち家率も低いことなどから、自治会など地縁によるコミュニティの形成が難しく、後継者が育ちにくい環境にある。

(3) 地域資源

勝山地区は、住宅地整備に加え、地区内のほぼ中央を県道 34 号、県道 247 号がそれぞれ南北、東西方向に貫き、JR 山陽本線、山陽新幹線の駅もあるなど交通の利便性が高く、生活しやすい地区として、多くの若者が集まる街となっている。また、国宝の住吉神社(本殿)のほか、勝山御殿跡、砂子多川などの自然と歴史にも恵まれている。

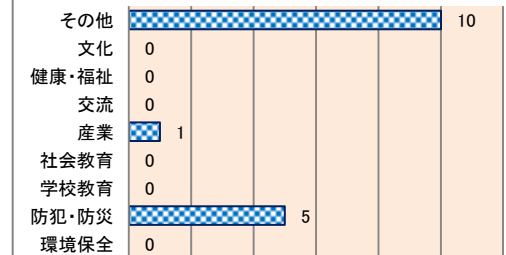
勝山地区タウンミーティング意見(代表例)

| 区分 | 意見 |
|-------|--|
| 防犯・防災 | 新下関駅周辺 4 力所の地下通路は利用者がほとんどおらず、新幹線の高架線沿いにあった横断歩道も撤去され危険度が高くなった。中央分離帯を横切る人など危険なので、再度、横断歩道の整備をお願いしたい。また、地下通路に非常灯(緊急通報装置)を設置していただきたい。 |
| 産業 | 小野・井田地区は高齢化が進み、荒廃地がかなり増えた。この荒廃地を活用するため、市の方で地主と相談し、野菜づくりなど高齢者向けの借地農園の計画を進めてもらえると、この地区の文化が守られると思う。 |
| その他 | 乗合バスの料金が 1 区間 190 円からと高く、4 人乗ればタクシーの初乗りと同じ料金である。100 円バスができないものか。 |

(その他意見抜粋)

- ・綾羅木川土手サイクリングロード整備
- ・砂子多川土手遊歩道整備
- ・御殿町公園へのトンネル整備
- ・地区内公園の駐車場整備
- ・新下関駅周辺の駐輪場整備
- ・新下関駅周辺以外の車道・歩道のバリアフリー化
- ・綾羅木川周辺の遊び場整備
- ・放流アユ捕獲規制
- ・消防団員の確保と情報交換
- ・消防団機庫の整備
- ・消防操法大会練習場の確保

勝山地区タウンミーティング意見



地区の魅力と課題

1 内日地区



| | | |
|--------|-------|-----------------|
| 面積 | 29.64 | km ² |
| 人口 | 1,298 | 人 |
| 年少人口 | 7.4 | % |
| 生産年齢人口 | 54.2 | % |
| 老年人口 | 38.3 | % |
| 世帯数 | 453 | 世帯 |
| 自治会数 | 9 | 自治会 |

H22 国勢調査

(1) 地区の概要

内日地区は、昭和30年に下関市と合併した。本市のほぼ中央に位置する鬼ヶ城をはじめとする龍王山、狩音山、笠ヶ岳、六万坊山等の山々に囲まれた盆地であり、綾羅木川や田部川の支流に沿って稲作を中心とした農地が広がっている。平成24年4月に下関北都市計画区域に加わり、市街化調整区域の区域区分が無くなったことで、開発行為が可能となった。地域内には主要県道が縦横に伸び、勝山方面に向かうサンデン交通と菊川方面に向かう市生活バスが運行している。

(2) 現状と課題

内日地区は、長らく市街化調整区域であったことから開発が抑制され、地区内には働く場は少なく、人口減少と少子高齢化が進んでいる。そのため、地区の主産業である農業分野では、後継者不足や耕作放棄地の増加が進んでいる。また、地区内には、病院やスーパーマーケットも無いため、交通弱者のためのバス等公共交通の充実が必要となってきた。

(3) 地域資源

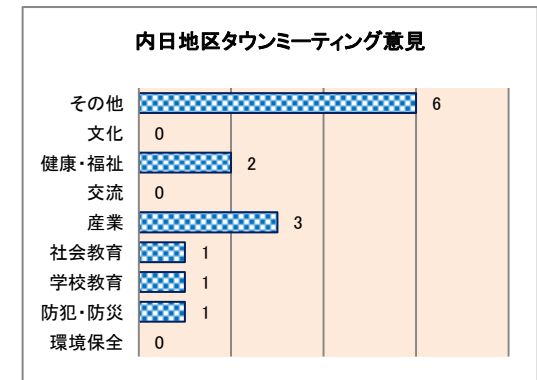
内日地区には、有形文化財登録の中野家住宅や内日貯水池などがあるほか、春には内日ダム周辺の桜を観に多くの人々が訪れる。また、地域の女性等で運営される「うつい工房」では、地域農産物を使った農産加工物を、地域の直売所「にこにこ市場」やJAなどで販売するなど、コミュニティビジネスにも積極的に取り組んでいる。

内日地区タウンミーティング意見（代表例）

| 区分 | 意見 |
|-------|---|
| 防犯・防災 | 内日地区の消防団員は定員割れの状況にあるため、団員の定年を60歳から65歳まで引き上げるよう考えていただきたい。 |
| 学校教育 | 小学校は一部複式学級であり、多くの子ども達と学べるよう、住宅整備など人口増加につながる対策を考えてほしい。 |
| 社会教育 | 食の教育として団体と園児・児童と一緒に田植えを行い、とても良い経験をした。他の学校からも来て、体験できる場があれば良いと思う。 |
| 産業 | 休耕地が増加しており、将来的にどうなるのかわからない。お互いが協力して休耕地を無くしていかなければならない。 |
| 健康・福祉 | 若い夫婦は共働きが多いが、地区内には幼稚園しか無く、しかたなく地区外へ出る人がいるため、内日幼稚園を保育園型にして欲しい。 |
| その他 | 情報通信について、現在、ADSLしか利用できないため、光ファイバーの整備を進めて欲しい。 |

（その他意見抜粋）

- ・市街化区域の設定
- ・市営住宅整備による人口減対策
- ・農村体験、住宅整備、企業誘致
- ・清末に繋がる県道の改良
- ・地籍調査の早期実現
- ・内日地区の児童・生徒減少対策
- ・うつい工房と地域雇用
- ・長寿会への市長参加
- ・内日米のPR



地区の魅力と課題

1 川中地区



| | | |
|--------|--------|-----------------|
| 面積 | 11.22 | km ² |
| 人口 | 33,335 | 人 |
| 年少人口 | 15.1 | % |
| 生産年齢人口 | 64.4 | % |
| 老年人口 | 20.5 | % |
| 世帯数 | 17,592 | 世帯 |
| 自治会数 | 52 | 自治会 |

H22 国勢調査

(1) 地区の概要

川中地区は、昭和12年に下関市と合併した。住宅開発による市街化によって急速に人口が増加し、本庁地区を除くと最大の管内人口を有している。現在も沖合人工島「長州出島」整備や「下関北バイパス」、都市計画道路、区画整備事業など多くの事業が進められており、大型ショッピングセンターの進出等によって益々、住みやすく活気のある発展が期待されている。

(2) 現状と課題

川中地区は、人口増加やモータリゼーションの普及によって、地区を縦断する国道191号では慢性的に渋滞が発生し、下関北バイパスの早期完成による渋滞緩和が望まれている。また、公共施設の整備や地域コミュニティの形成は、急速な人口増加や宅地開発のスピードに追付いておらず、今後はハードとソフト両面で、地域づくりに取り組んで行く必要がある。

(3) 地域資源

川中地区には、綾羅木郷遺跡や仁馬山古墳など国指定史跡のほか、明治天皇の叔父「公卿中山忠光」を祭った中山神社など、歴史を感じることができる場がいくつも存在する。

また、地区公民館を中心に、文化祭、コスモス祭り、地区敬老会、地区夏まつり、ふれあいウォークなど、地域文化と住民同士のつながりを育む地区行事が行われており、若者が多く生活する地区として、今後、益々活発な活動に発展することが期待される。

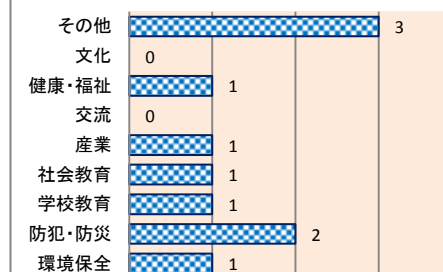
川中地区タウンミーティング意見（代表例）

| 区分 | 意見 |
|-------|---|
| 環境保全 | 中心部の産廃処理場は、団地と近傍に位置するため、長きに亘り行政、自治会、住民、産廃業者の4者で環境問題の協議を行ってきたが、最終的には移転しないと解決できないと思う。 |
| 防犯・防災 | 通学路は交通量も多く防犯面でも不安であることから、防犯灯の設置が必要となるが、複数の自治会にまたがるため難しい状況である。 |
| 学校教育 | 大型スーパーと学校が近く、教育環境の悪化によって学力低下が懸念される。学校と協力し、優秀な子どもをつくろうではないかと訴えている。 |
| 社会教育 | 熊野、豊町、山の田、大学町など人口規模が大きい地区に、コミュニティ施設の整備をして欲しい。 |
| 産業 | 以前の商品券事業は、市からの助成金他県から来た店の利益や、銀行の手数料となってしまったが、この度のクーポン券事業をうまく活用し、利益が残るような方法を考えていただきたい。 |
| 健康・福祉 | 民生児童委員の定数見直しが検討されているが、川中中校区の新しくできた町は民生児童委員もおらず、高齢化や児童の問題もあるため、配置をお願いしたい。熊野小学校には主任児童委員がおらず、学校区に1名ずつ配置されれば、学校との連携が取れると考えるので、検討願いたい。 |
| その他 | 地区内の人口が3万3千人と多く、駐車場も川中支所の中も混雑しているため、支所の早期の改装や移転などを進めて欲しい。 |

（その他意見抜粋）

- ・市役所部局配置の疑問
- ・民生委員に相談しやすい環境づくり
- ・通学路安全確保への事業者協力
- ・新造成地への街灯設置
- ・支所と地域の管轄区域ズレ
- ・自治会活動へのPTA協力
- ・地域活動への市補助金カット
- ・子供のしつけ等への学校協力
- ・老人憩いの家のモデルケース

川中地区タウンミーティング意見



地区の魅力と課題

1 安岡地区



| | | |
|--------|--------|-----------------|
| 面積 | 16.40 | km ² |
| 人口 | 14,904 | 人 |
| 年少人口 | 12.1 | % |
| 生産年齢人口 | 58.7 | % |
| 老年人口 | 29.2 | % |
| 世帯数 | 5,607 | 世帯 |
| 自治会数 | 31 | 自治会 |

H22 国勢調査

(1) 地区の概要

安岡地区は、大正12年に町制を敷き、昭和12年に川中地区と共に下関市と合併した。市の外海面中央部に位置し、東と北の山地からなだらかに海に向かって傾斜する自然豊かな地域である。地区内にはJR山陰本線の安岡駅と福江駅、国道191号が縦断し、長府地区へと繋がる県道247号が横断している。安岡地区は福江、横野、安岡、安岡浦、蒲生野、富任の概ね6地区に分けられ、それぞれ農業や漁業、食品製造業、小売業など地域の特色を生かした産業が発展している。

(2) 現状と課題

安岡地区は、近年、人口が減少傾向であり、特に20代前後を中心に地区外への流出が目立つほか、人口構成も古くから町制を敷いた彦島、長府、小月地区と同様、高齢化率が高めとなっている。そのため、農水産業分野では後継者不足が顕著になりつつあるほか、地域活動も既存団体の連携は見られるものの、形骸化しつつある。

(3) 地域資源

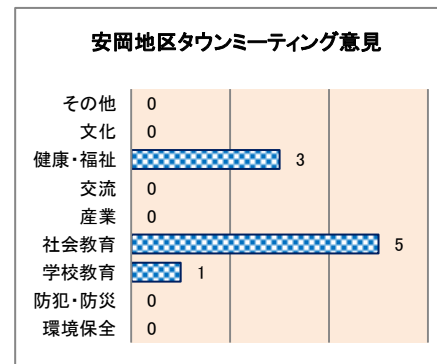
安岡地区には、旧市内北部のスポーツ施設の核となる下関北運動公園のほか、自然を親子で楽しめる深坂自然の森などが整備されるなど、一年を通して若者が集まる場を有している。また、福江、横野地区で生産される安岡ねぎは、ふぐ刺しや瓦そばなど、地元料理に欠かせない食材としてブランド化が図られている。

安岡地区タウンミーティング意見（代表例）

| 区分 | 意見 |
|-------|--|
| 学校教育 | 現在、特別教育支援員1名の配置であるが、現状から2人の配置が必要であるため、要配慮生徒への支援員を増員していただきたい。 |
| 社会教育 | 小学校では、図書館ボランティアなどで子どもたちの読書に対する興味が広がっており、中学校でも子どもたちの学習意欲が高まっている。そんな中、広くどんな分野の興味にも対応できる図書館建設を強く要望する。 |
| 健康・福祉 | 子育て支援活動について、いろいろな取り組みをしたくても予算が全くないという状況であり、講師の謝礼など必要経費も捻出が難しい。市も予算（助成）が出せるから、地域も手伝って欲しいというのであれば、子育て支援も積極的に参加できる。 |

（その他意見抜粋）

- ・豪雨時の安岡駅周辺の冠水
- ・自治会未加入世帯への勧誘活動
- ・包括支援センター開設に伴う効果
- ・敬老祝い品の現金給付
- ・高齢者増加に伴う民生児童委員数の増
- ・文化活動促進に向けた公民館改修
- ・公民館改修への地域意見の反映
- ・安岡駅周辺のたばこポイ捨て対策
- ・ボランティア清掃の負担軽減（分別）
- ・元気なまちづくりのためのあいさつ運動
- ・中学校内緊急連絡手段の確保
- ・公民館の駐車場確保
- ・地域ぐるみの防犯パトロール



地区の魅力と課題

1 吉見地区



| | | |
|--------|-------|-----------------|
| 面積 | 26.50 | km ² |
| 人口 | 6,614 | 人 |
| 年少人口 | 8.3 | % |
| 生産年齢人口 | 58.6 | % |
| 老年人口 | 33.1 | % |
| 世帯数 | 2,791 | 世帯 |
| 自治会数 | 31 | 自治会 |

H22 国勢調査

(1) 地区の概要

吉見地区は、吉見、永田、吉母、蓋井島で構成され、吉見は昭和14年に、吉母・蓋井島は昭和29年に下関市と合併した。地区は、竜王山のふもとから響灘までなだらかに農地が広がるほか、吉見、吉母と2つの漁港を有している。また、水産大学校や海上自衛隊下関基地があり、地区全体として20代前後の男性が多い人口構成となっている。

地区内には、国道191号のほか、JR山陰本線の吉見駅、梅ヶ峠駅がある。

(2) 現状と課題

吉見地区は、JR吉見駅裏の耕作放棄地（私有地）が地域全体の課題となっているほか、人口減少と少子高齢化の進行に伴う児童・生徒数の減少、地域行事への参加者の減少、公共交通の利便性向上なども課題となっている。そのため、地区の若者も取り込み、話し合いの中から、地域一体となったまちづくりに取り組んで行く必要がある。

(3) 地域資源

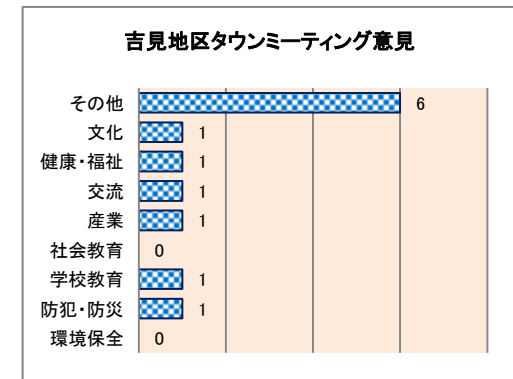
吉見地区には、本州最西端の地である毘沙ノ鼻、長さ100mの釣りデッキを備えた吉見フィッシングパーク、吉見温泉郷、吉母海水浴場、竜王山など豊かな自然との観光資源が豊富である。また、海上自衛隊下関基地の音楽コンサートやサマーフェスタ、水産大学校の大学祭などには、地区内外から多くの来場者があり、地域を盛り上げる毎年恒例のイベントとなっている。

吉見地区タウンミーティング意見（代表例）

| 区分 | 意見 |
|-------|---|
| 防犯・防災 | 駐在所署員は、年に1～2回各家庭を訪問しなければならないと聞いているが、2人では物理的に難しく、もう1人増員できないか。 |
| 学校教育 | 妙寺地区は小学校に電車通学し、宗房、上町、船越地区は子供の足で通学に40分程度かかるので、防犯面からもスクールバスを運行して欲しい。 |
| 産業 | 吉見駅裏に耕作放棄地があり、地域発展のためにも対策が必要である。土地所有者を特定し、所有者の協力を得ながら市民農園などに活用したい。 |
| 交流 | 海響マラソンのエントリーが多いので、春・秋の2回の開催ができれば、受入体制など大変だと思うが、観光面など経済効果もあると思う。 |
| 健康・福祉 | 他地区の保健福祉センターには、立派な健康器具があり、利用度も高いと聞いた。遠方の利用者もいるということであり、この地区にも同様の施設ができれば良いと思う。 |
| その他 | 梅光大跡地のグラウンド・駐車場、施設をコミュニティスペースとして市民に開放できないか。 |

（その他意見抜粋）

- ・吉見駅裏の整備
- ・公民館横に掛る橋の早期復旧
- ・高齢者のための生活バス運行
- ・テニスコートの共同管理
- ・地区の下水道整備
- ・公民館の冷暖房機器の修繕



地区の魅力と課題

1 菊川地区



| | | |
|--------|-------|-----------------|
| 面積 | 83.78 | km ² |
| 人口 | 7,978 | 人 |
| 年少人口 | 12.6 | % |
| 生産年齢人口 | 58.9 | % |
| 老年人口 | 28.5 | % |
| 世帯数 | 2,742 | 世帯 |
| 自治会数 | 42 | 自治会 |

H22 国勢調査

(1) 地区の概要

菊川地区は、旧豊東村、旧岡枝村、旧榑崎村及び旧内日村の一部であった日新のエリアである。山系に囲まれた田園平野には木屋川、田部川が流れ、気温も温暖で古くから別名「小日本」と称されている。旧下関市に隣接し、中国自動車道小月ICも近いことから、近年、宅地開発が進み、多くの地区が人口減少を見せる中、人口は横ばい傾向にある。地区内の公共交通機関は、サンデン交通及び市生活バスが運行している。

(2) 現状と課題

菊川地区は、市内初、県内 7 番目となる道の駅「きくがわ」を平成 9 年にオープンし、菊川名産のそうめんなど地域の農産品を提供することで、多くの旅行者を集客してきたが、豊田地区、豊北地区に相次いで新しいコンセプトの道の駅がオープンしたことで集客力は低下しつつある。地域の主産業である農業分野では、近年、シカ等による被害が増加傾向にあるほか、盆地の地形により、近年頻発する集中豪雨による水害の危険性もあり、実際、平成 22 年にも水害が発生している。

(3) 地域資源

菊川地区には、中山溪を始め、歌野ダムにある自然活用村など、都市部近郊で自然を楽しむ場が多くあり、地域で菊川そうめんなどの特産品にも力を入れている。また、桜、いちご、ほたる、花火など 1 年を通じて楽しめるイベントが多数あり、近年は菊川地区の農産品を使った「ぶちうま鍋」など新たな地域の活性化にも取り組んでいる。

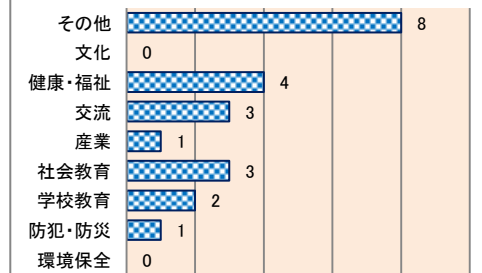
菊川地区タウンミーティング意見（代表例）

| 区分 | 意見 |
|-------|---|
| 防犯・防災 | 菊川町の消防団は定数に達しているが、勤め人が多いため昼間がやや不安を感じている。 |
| 学校教育 | 豊東小学校で火災避難訓練に参加したが、廊下の応急処置など部分的改修が必要である。 |
| 産業 | シカ対策について、電気柵は点的に設置しても効果がないため、町全体を山際で囲うなどの統一的な対策はできないものか。 |
| 交流 | 道の駅を基盤として、情報・交流の中心としていく必要があるが、築 16 年経過し、修繕も増えてくるため、大きい修繕は要望に参りたい。 |
| 健康福祉 | 父兄からの要望であるが、子どもセンター（放課後児童クラブ）が中心部に一つしかなく、利用できないため校区毎に設置を願いたい。 |
| その他 | 若い人の出会いの場づくり、若い人を定着させ、活性化させる組織への支援、今から先を考える若年層に対する支援が必要である。 |

（その他意見抜粋）

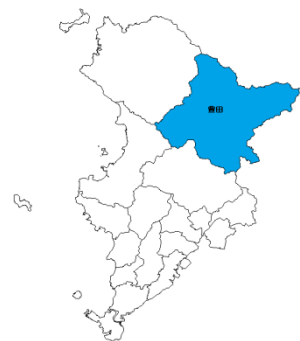
- ・民生児童委員の増員
- ・地域交流で使う公共施設の減免措置
- ・アブニールのバリアフリー化
- ・保育所の狭小問題（入口・園庭）
- ・婦人会補助金額の維持
- ・保健センターのコミュニティスペースの確保
- ・生活バスの増便
- ・保育所・幼稚園の統合問題
- ・公共施設の貸館手続きの簡素化
- ・交流人口拡大と関連総合支所予算
- ・地域を知るための案内看板設置
- ・総合支所、体育館工事の進ちょく状況
- ・スーパー撤退への対策

菊川地区タウンミーティング意見



地区の魅力と課題

1 豊田地区



| | | |
|--------|--------|-----------------|
| 面積 | 163.47 | km ² |
| 人口 | 5,987 | 人 |
| 年少人口 | 11.2 | % |
| 生産年齢人口 | 52.4 | % |
| 老年人口 | 36.4 | % |
| 世帯数 | 2,267 | 世帯 |
| 自治会数 | 35 | 自治会 |

H22 国勢調査

(1) 地区の概要

豊田地区は、昭和 29 年に旧西市町、旧殿居村、旧豊田中村、旧豊田下村が合併したエリアである。市内最高峰の華山、霊峰狗留孫山などの山々に囲まれた盆地に、田園が広がり、瀬戸内海に注ぐ木屋川と日本海に注ぐ栗野川の 2 系統があるほか、豊田湖や石柱渓など自然あふれる地区である。主産業は米を中心とした農業のほか、特産品の梨が有名であり、地区で肥育される和牛も、下関和牛としてブランド化に取り組んでいる。地域の公共交通には、サンデン交通とブルーライン交通、市生活バスが運行している。

(2) 現状と課題

豊田地区は、豊北地区と同様、昭和 30 年以降、日本の高度経済成長の中で都市部へと多くの若者が流出したことで、過疎化と少子高齢化が進み、主産業である農業の後継者不足や地域防災力の低下、地域協同作業の人材不足などが懸念される。また、近年の集中豪雨等による木屋川の氾濫など、災害面での課題も高まっている。

(3) 地域資源

豊田地区は、温泉を始め、豊田湖畔公園、農業公園みのりの丘、道の駅「蛭街道西ノ市」、梨観光農園など一年を通じて自然とふれあえる施設が充実しており、地区の一大イベントとして毎年 6 月に開催されるホテル祭りには、県内外から多くの観光客が訪れる。また、地域医療の拠点施設である豊田中央病院があり、高齢化率の高いこの地区にとって重要な施設となっている。

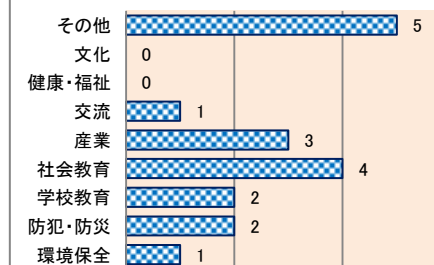
豊田地区タウンミーティング意見（代表例）

| 区分 | 意見 |
|-------|--|
| 環境保全 | 産業廃棄物最終処分場は豊田下地域の大きな問題であり、自然を守るという意味でも、もっと関心を持って声を出して取り組むべきだと思う。 |
| 防犯・防災 | 震災を受け各消防団に色々な備品が配備されたが、それらを活用する人を育て、有事の際に対応するため、防災訓練を再三に実施すべき。 |
| 学校教育 | 廃校となった豊田西中学校の管理を地域だけで行うのは負担が大きすぎるため、地元も協力するが、市も多少の金銭的支援が必要。 |
| 社会教育 | 西市は生涯学習推進委員会を立ち上げ取組んでいるが、マンパワーが不足している。行政のパートナーとなる人材育成には生涯教育が必要である。 |
| 産業 | 農業分野も過疎・高齢化が進み、新規就農者がいない状況である。支援事業はあるが、一般の方が参入しやすい事業が無いので、検討して欲しい。 |
| 交流 | 老人会をもっと有効に活用すべきである。 |
| その他 | 今後必要となる人材は、調整者（コーディネーター）であり、これを各地域で育てていけば、行政課題の解決もスムーズに進む。 |

（その他意見抜粋）

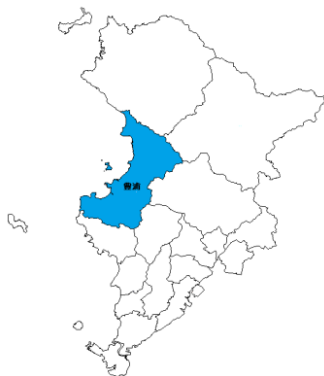
- ・防災のための木屋川ダム早期嵩上げ
- ・西市への公民館設置
- ・老人会加入者の減少
- ・豊田地区情報インフラの整備
- ・協働によるまちづくりの必要性
- ・みのりの丘経営の懸念
- ・女性のための調理場整備
- ・総合支所と本庁との繋がり
- ・少子化対策としての産業振興

豊田地区タウンミーティング意見



地区の魅力と課題

1 豊浦地区



| | | |
|--------|--------|-----------------|
| 面積 | 75.84 | km ² |
| 人口 | 18,754 | 人 |
| 年少人口 | 10.5 | % |
| 生産年齢人口 | 56.1 | % |
| 老年人口 | 33.4 | % |
| 世帯数 | 7,296 | 世帯 |
| 自治会数 | 90 | 自治会 |

H22 国勢調査

(1) 地区の概要

豊浦地区は、昭和30年に旧小串町、旧川棚村、旧黒井村及び旧宇賀村の一部が合併したエリアである。西は響灘に面し、東及び北は連峰または比較的峻険な山地帯にさえぎられ、南は比較的緩やかな斜面地に閑静な田園集落が広がる。地区の公共交通機関には、JR山陰本線が通り黒井村、川棚温泉、小串、湯玉、宇賀本郷と5つの駅があるほか、サンデン交通、ブルーライン交通が運行している。

(2) 現状と課題

豊浦地区は、旧下関市のベッドタウンとして宅地開発が行われ、人口は増加傾向にあったが、近年、若者を中心に地区外への人口流出が続いており、川棚を除く宇賀、小串、黒井、室津で人口減少率が高くなっている。また、今後は、空き屋の増加に対する懸念や、市立病院を含む公共施設の老朽化等も大きな課題となっている。

(3) 地域資源

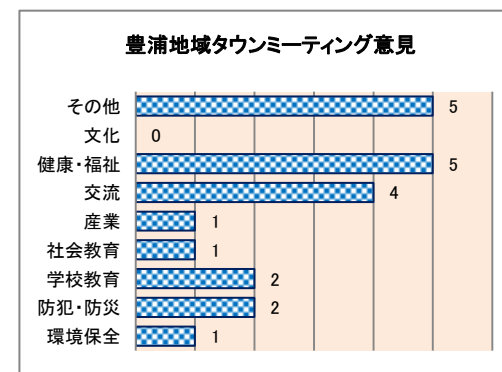
豊浦地区は、古くから下関の奥座敷で知られる川棚温泉など温泉施設が充実しており、名物瓦そばやリフレッシュパーク豊浦のコスモス、国指定天然記念物のクスの森など観光資源が豊富であり、年間50万人を超える観光客が訪れている。観光交流都市を目指す本市にとって、観光客の回遊性を高めていくための重要な地区となることが期待される。

豊浦地区タウンミーティング意見（代表例）

| 区分 | 意見 |
|-------|--|
| 環境保全 | 自治会清掃時や3月の住民異動時に集積場所に排出される産廃ごみの処理を旧市内はどのようにしているのか。 |
| 防犯・防災 | 地域マップ作りをしているが、年々、空き家が増加しており危険であるため所有者への連絡方法等の徹底が必要である。 |
| 学校教育 | 心の面での教育が重要であり、地域と関わりある教育推進が必要。 |
| 社会教育 | 図書館整備について、空間のある整備に配慮してほしい。 |
| 産業 | 若者の働く場所が減少しているため若年層が残らない。農業企業化などの支援体制が必要である。 |
| 交流 | 子育て支援に市の活動助成をもらっているが、今後、全面ボランティア化では成り立たないため助成の継続をお願いする。 |
| 健康・福祉 | 幼稚園の募集停止基準は、将来的な園児減少の予測がベースであるが、幼稚園を残す社会政策にまず努力すべきであり、地域と行政の連携が必要。 |
| その他 | 高齢者にとってバス停が少なく、買い物にも行けない。バスを小型化し、バス路線網の改善・充実をお願いする。 |

（その他意見抜粋）

- ・民生児童委員定数の維持
- ・地域と行政の話し合いの場が必要
- ・総合支所整備への市民同意
- ・老人クラブ会員の減少
- ・利用しやすい図書館整備
- ・言語発達障害者のための環境整備
- ・女団連への助成内容の見直し
- ・コスモスを活用した観光と産業の連動
- ・地域へのアドバイザー派遣等支援
- ・地域スポーツイベントのPR
- ・安全な歩道整備と街灯整備
- ・ニーズに合った公民館整備



地区の魅力と課題

1 豊北地区



| | | |
|--------|--------|-----------------|
| 面積 | 168.64 | km ² |
| 人口 | 10,621 | 人 |
| 年少人口 | 7.5 | % |
| 生産年齢人口 | 49.8 | % |
| 老年人口 | 42.7 | % |
| 世帯数 | 4,347 | 世帯 |
| 自治会数 | 99 | 自治会 |

H22 国勢調査

(1) 地区の概要

豊北地区は、旧神玉村、旧角島村、旧神田村、旧阿川村、旧栗野村、旧滝部村、旧田耕村及び宇賀村の一部であった北宇賀のエリアであり、本市の最北端に位置する。主産業は内陸部の農業と海岸部の漁業を中心とした第一次産業であり、海岸部は北長門海岸国立公園にも指定されている。地区内の公共交通機関は、5つあるJR駅のほかブルーライン交通、市生活バス及び栗野地区ではコミュニティ交通がある。

(2) 現状と課題

豊北地区は、豊田地区と同様、昭和30年以降、日本の高度経済成長の中で都市部へと多くの若者が流出したことで、過疎化と少子高齢化が進み、主産業である農業、漁業の後継者不足や地域防災力の低下などが懸念される。また、少子化に伴う小学校の統廃合、高齢者単独世帯のための日常の買い物、交通手段の確保など多くの課題も抱えており、若者の雇用の場の確保や地域全体で支え合う仕組みづくりが必要となっている。

(3) 地域資源

豊北地区は、平成12年の角島大橋開通及び平成24年の道の駅「北浦街道豊北」のオープンによって夏季には海や豊かな自然を求め、県内外から多くの観光客が訪れるほか、白滝山を中心に山間部では32基75,000kw規模の風力発電が行われている。また、特牛港に水揚げされる下関北浦特牛イカのブランド化普及にも努めている。

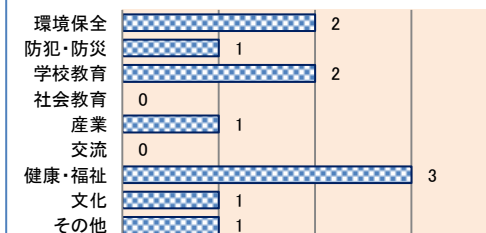
豊北地区タウンミーティング意見（代表例）

| 区分 | 意見 |
|-------|--|
| 環境保全 | 市管理河川の改修や浚渫について、経費面等を考慮し、地元自治会が委託管理できる仕組みを検討して欲しい。 |
| 防犯・防災 | 地区毎に1人しかいない交通指導員の数を増員して欲しい。 |
| 教育 | コミュニティ・スクールの準備を進めているところだが、地域の人とのつながりが重要であり、地域の皆さんと一緒に色々と考えていきたい。 |
| 産業 | 耕作放棄地は、放棄でなく耕作できない事情になっているため、解消に向け財産を放棄できる仕組みが必要であり、担い手や集落営農組織などへ贈与、集積できる制度を検討してほしい。 |
| 健康・福祉 | 母親クラブは任意団体であるため、入り手が少なくリーダーも育っていない状況であり、まちづくりに興味や関心を持つ人材づくりが必要。 |
| 文化 | 漁ろう用具が国登録有形民俗文化財に登録されており、次の世代へ郷土遺産として引き継げる適切な管理をお願いしたい。 |
| その他 | 田耕地区を訪れる人のために、公衆トイレを設置して欲しい。 |

（その他意見抜粋）

- ・収集困難地での海岸漂着ゴミ処理負担の軽減
- ・学校統廃合に向けた慎重な判断
- ・民生児童委員の定数維持
- ・豊浦病院までの福祉バス運行
- ・敬老会の豊北町内での実施

豊北地区タウンミーティング意見



地区の魅力と課題

1 六連島地区



| | | |
|--------|------|-----------------|
| 面積 | 0.69 | km ² |
| 人口 | 104 | 人 |
| 年少人口 | 4.8 | % |
| 生産年齢人口 | 58.7 | % |
| 老年人口 | 36.5 | % |
| 世帯数 | 37 | 世帯 |
| 自治会数 | 1 | 自治会 |

H22 国勢調査

(1) 地区の概要

六連島地区は、彦島地区の一部であり、本土の西4kmの響灘に浮かぶ溶岩台地の島である。地区の交通は、竹崎栈橋から渡船が1日4往復、片道約20分で結ばれている。

島内の主要産業は、キクやカーネーションなど花きハウス栽培を中心とした農業であり、主に北九州市へと出荷されるなど、花の島として知られている。島内には、小学校や病院は無く、渡船により本土に通学、通院している。

(2) 現状と課題

六連島地区は、常備消防が無く、火災発生時には自主消防組織による初期消火活動を行うこととなるが、日中は農業や漁業で若者の多くが不在となるため、放送設備の充実が重要となっている。また、人口減少と少子高齢化の進行によって、島内産業の後継者不足、渡船の老朽化と運営、コミュニティの維持等様々な課題が存在し、住民と行政がこれまで以上に協力しながら、離島振興を図っていく必要がある。

(3) 地域資源

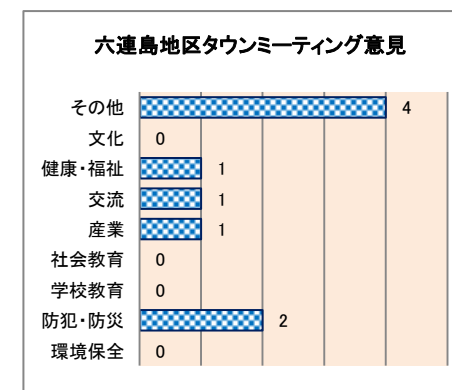
六連島地区にある六連島灯台は、日本で最も早く建造された様式灯台の一つであるほか、下関市の名産品として知られるウニの瓶詰めも六連島が発祥である。その他、遊漁や天然記念物の雲母玄武岩などの観光資源、約1時間で島を一周できる気安さ、本土からの近傍性などから、自然を求め毎年多くの観光客が訪れている。

六連島地区タウンミーティング意見（代表例）

| 区分 | 意見 |
|-------|--|
| 防犯・防災 | 島内を周回する道路がないため、Uターンしなければいけないので、災害対策として周回道路を整備してほしい。 |
| 産業 | 施設利用型（ハウス）栽培で耕作放棄地が増加し、害虫が増えている。また、農業被害があるため有害鳥獣対策として、カラスを駆除してほしい。 |
| 交流 | 老人会の会合を毎月実施しているが、会員が年々減ってきている。 |
| 健康・福祉 | 隣の馬島（北九州市）は、世帯数が10世帯であるにもかかわらず診療所が設置しており、六連島にも診療所のようなものがあればと思っている。 |
| その他 | 花の島・六連島のPR、島おこしを目的に7年前に結成した無料ボランティアガイド4名が力を合わせ島の案内をしており、今後も市の協力を。 |

（その他意見抜粋）

- ・自衛隊跡地を活用した集客
- ・若者帰島による後継者増加
- ・市職員の島訪問不足
- ・島の後継者教育
- ・釣客の安全対策
- ・夜間の島内放送設備利用
- ・島内のコミュニティ
- ・小学生の通学と渡船時刻
- ・高齢者の通院と渡船時刻



地区の魅力と課題

1 蓋井島地区



| | | |
|--------|------|-----------------|
| 面積 | 2.35 | km ² |
| 人口 | 83 | 人 |
| 年少人口 | 4.8 | % |
| 生産年齢人口 | 60.2 | % |
| 老年人口 | 35.0 | % |
| 世帯数 | 32 | 世帯 |
| 自治会数 | 1 | 自治会 |

H22 国勢調査

(1) 地区の概要

蓋井島地区は、吉見地区の一部であり、本土の西約 14km の響灘に浮かぶ島である。地区の交通は、吉見港から渡船が 1 日 2～3 往復、片道約 35 分で結ばれている。

島内の主要産業は漁業であり、一本釣りや大型定置網、磯見によってブリ、ヒラマサ、サワラ、サザエなどが主として水揚げされるほか、栽培漁業にも取り組んでいる。

島内には小学校はあるが、中学校や病院はなく、本土まで通学、通院している。

(2) 現状と課題

蓋井島地区に病院が無く、急患の搬送はもっぱら漁船や県ドクターヘリに頼っているが、荒天時は利用が難しい状況である。産業面では、漁獲量の減少と魚価の低迷が続いており、島民の安定した生活を維持するため、今後も市の支援が必要である。また、漁業以外の新たな収入源として、エミューの飼育を開始したが、現在も商業化が難しい状況にあるほか、観光面でも離島の魅力発信と集客につながる取り組みは少ない。

(3) 地域資源

蓋井島地区は、古くから神話の島として知られるほか、島の新鮮な魚介や山菜を楽しめる宿泊施設があり、春から秋にかけて島独自の自然を楽しむ観光客が多い。また、島民と市、島民と水産大学校がそれぞれ協力しながら、地域産業の活性化や伝統文化の伝承の一翼を担うなど、島の活力維持に取り組んでいる。

蓋井島地区タウンミーティング意見（代表例）

| 区分 | 意見 |
|-------|---|
| 防犯・防災 | 既存の小型ポンプは、男性でもエンジン始動に苦勞するが、島の初期消火に重要であるため、男性が漁で不在時も、女性が簡単に始動できる小型ポンプを整備して欲しい。 |
| 学校教育 | 中学校用寄宿舎の青雲寮には現在、利用者はいないが、今の 5 年生を含めて、児童も増えるため存続をお願いしたい。 |
| 交流 | 吉見地区とスポーツ交流をしているが、お年寄りもスポーツを通じて触れ合う機会があればと思う。 |
| 健康・福祉 | 高齢者の病院通いは、定期船、バス代がかり年金生活者は受診も面倒となることから、75 歳以上の受診に対する船賃免除を検討して欲しい。 |
| その他 | 来島者用トイレは下水処理場にあり乗船場から遠い。荷捌き所での利用が多いことから、漁港の近くに来島者用のトイレ設置をお願いしたい。既存トイレの管理は、婦人部が掃除を行い、経費は漁協が負担している。 |

（その他意見抜粋）

- ・島内農業を収入源とする取り組み
- ・蓋井丸のフェリー化
- ・公共施設の修繕
- ・本土での学習に対する子ども運賃の減免
- ・ブロードバンド利用料の低廉化
- ・漁業関連情報の提供
- ・島外保育時の保護者運賃の減免
- ・島内公園整備作業への市の支援
- ・渡船の子供向け安全管理
- ・島内でのデイサービスの充実
- ・女性でも扱いやすい消防ポンプの配備
- ・津波対策としての海拔標識の設置
- ・荒天時における緊急搬送体制の整備
- ・高潮対策としての漁港整備
- ・来島者のための案内看板設置
- ・漁獲量減少と水産資源監視

蓋井島タウンミーティング意見

